

## ■鳥栖市男女共同参画懇話会からの意見(Aグループ)

設問番号	内容について
F1	「3. その他」の選択肢も入れた方が良いが、「その他」という言葉は当事者に疎外感を感じさせるのではないかと。→「その他( )」と自由記述化すればいいのではないかと。
F2	アンケート対象者を選挙権年齢に合わせて、18歳以上に引き下げてもいいのではないかと。 前期/後期高齢者の区分から「75歳以上」などの区分を追加してもいいのではないかと。
F3	事実婚をわざわざ書き込むべきかと。→事実婚カップルには自分たちが含まれるのか分からない。 選択肢中の死別・離婚「した」を外してもいいのではないかと。 「未婚」は「結婚していない」に変えた方がいいのではないかと。(未婚はいずれ結婚するのが前提のように思われる。)
F4	ひとり親(父子・母子家庭)の選択肢、「2世代世帯」(カッコ内)との区別が紛らわしい。回答者にわずらわしさを感じさせる。 シングルであることがアンケート全体との関連で必要あるのか。
F5	別居している家族を含むのか紛らわしい。 「同居するご家族に～」と「同居する」を付け加えたほうが分かりやすいのではないかと。
F7	質問の意図がよく分からない。→アンケート後半においた方がいいのではないかと。 仕事について/家庭について/地域生活について などについて聞いてもいいのではないかと。
問1	「どちらともいえない」という選択肢は不要では。→県「思う」鳥栖市「賛成、反対」(エ)の設問は、県のアンケートの表現に変えてもいいのではないかと。
問2	(ク)と(ケ)の選択肢の位置を入れ替えた方がいいのではないかと。(まず子どもに関するものを先にする。) 選択肢中の「主に」という文言を「もっぱら」に変えた方がいいのではないかと。
問3	「職業人としての教育」の意味がよく分からない。「職業人としての」を外して、「自立できるような教育」へと変えてもいいのではないかと。 「どちらとも言えない」の選択肢は不要ではないかと。
問4	市民の子育てにおけるジェンダー(らしさ)を聞きたい。 行政のアンケートで、例えば「男の子＝たくましい」という結果が出た時、それを批判するのが目的だが、むしろジェンダー規範を助長する副作用も若干ありそうである。また、「自分の子どもは世間のイメージと違う」と感じさせる恐れもある。 →アンケート結果に対する説明で誤解を招かないよう、質問の意図を説明する。
問5	全部つけたいときも、「特に」優先するもの2つ選ぶ。
問6	若年層の低賃金(非正規化)が、晩婚化・晩産化につながっている。 経済的・心理的・子育て負担など、項目を内容の種別に応じて選択肢・順序を整理した方がいいのではないかと。
問7	7-B「生きがい」という選択肢を入れてもいいのではないかと。 7-C「自分に適した仕事がない」→選ばなければ就ける仕事はあるが自分に適してない。 「働く場所がない」→そもそも全く働くところがない。
問8	「男性が職業を持つこと」について、どう思うかを聞かなくてよいのか。
問9	全部は選べない(全部あてはまりそう) 「結婚」という項目も必要ではないかと。(夫が働かせない/企業や女性自身にも「寿退社」を当然視する意識・慣習がある。) (11.)にマタハラを付加した方がいいのではないかと。
問10	「それぞれ家庭事情に応じて話し合っ決めて」という選択肢を置くと、これを選ぶ人が多くなり、市民の性別役割分業意識を取ることが難しくなるのではないかと。
	回答するのに迷い・悩むので、かなりの時間を要する。 回答者の世代(例えば育児の経験がいつぐらいか)
問16-B	子どもがいるから(相談しなかった)という項目もあってもいいのではないかと。